

1. 園の教育目標

個人の楽しい経験の場としての生活環境を整え、個人差に留意しながら心身の発達を助長するとともに、集団生活を通じて人間関係を育みながら、自主性・社会性・創造性の伸長を図る。

2. 本年度に定めた重点的に取り組む目標

子どもの成長・発達を保障する教育の実践

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み内容	評価	取り組み状況
教育課程	○行事中心の保育から、日々の積み重ねによる行事へと方向性をもてるように実施する。 ○幼児の育ちにとっての意義、発達に応じた活動内容を教師間で抑えながら進めていく。	A	◎全学年へのリトミックや鍵盤ハーモニカ、年中・年長児への英語教育・年長児へのお茶作法など、豊かな感性を育む経験を取り入れた。 ◎全学年の体力向上と諦めない心の養育としてマラソン大会を実施、年長児は、自然環境への保護を兼ねて、鹿島の清掃活動や鹿島登山を経験した。
特別支援教育	○障がいのある幼児に対して、家庭や関係機関と連携しながらその状態に応じた指導内容や指導方法の工夫をする。	A	◎配慮を必要とする園児が、園生活を通して著しい成長がみられる。今後も施設との連携を継続するが、入園前に療育施設を利用している場合、指導者との話し合いをもち、個々にあった環境を検討する。
大学との連携	○大学附属幼稚園としての人的、物的環境を活かし、専門教育を織り込んだ遊びを展開しながら教育力を高める。	A	◎全園児の造形指導、体育遊び、年長児の保健指導など幼児の資質向上につなげることができた。 ◎大学の協力により、大学100周年を記念して、大学の敷地内でマラソン大会を挙行了した。
家庭・地域との連携	○幼保と小学校連携を深め、子どもたちの生活や学びの基盤を保証するため、幼児期の教育と児童期の教育を円滑に接続する。 ○地域貢献に努めたり、地域の行事に参加したりする。	A	◎年長児は、小学校との滑らかな接続のために、北条小学校1年生との交流活動や立岩小学校との「いもほり体験」に参加した。 ◎地域貢献として、年長児が北条「鹿島」の清掃活動に参加した。昼食は、保護者のご協力により「太田屋」の鯛めしをいただいた。 ◎北条公民館文化芸能祭において、年長児が代表として出演した。
衛生管理	○学校保健法により、学校医、学校歯科医、学校薬剤師を置く。 ○感染症の蔓延防止のため、愛媛県内や近隣の小中学校の感染状況を把握する。	A	◎幼児の健全な発育のため、年一回の内科検診(5月)、歯科検診(6月)、尿検査(5月)を行う。薬剤師による、水質検査、照度計を用いた明るさの基準を満たしているかを確認した。 ◎マスク着用のメール配信(2回)、園での手洗いうがいの徹底に努めた。

安全管理	<p>○交通安全教室では、松山市都市計画課、交通安全協会のご協力を得て実施する。</p> <p>○学期始めに、バス運行を含めて危機管理マニュアルの確認を行い、共通認識をもち、安全管理に努める。</p>	A	<p>◎9月に実施している交通安全教室では、模擬道路や標識を使い、信号の見方、横断歩道の渡り方、正しい道の歩き方を実践した。</p> <p>◎大学敷地内にある御聖堂への道のりは、交通ルールを守り、安全を確保しながら歩いて訪問している。(年4回)</p> <p>◎保護者には、交通事故防止のため、手をつないで登園することや大学内は徐行するなどのお便りを配布し、安全対策に努めた。</p>
防災教育	<p>○地震、火災、洪水、雷などの自然災害に対する様々な状況を想定して避難訓練を行った。</p>	A	<p>◎中央消防北条支所のご協力を得て、火災を想定した避難訓練(5月)、難波女性防火クラブのご協力を得て、防災紙芝居の実施、地震を想定した避難訓練、起震車体験(1月)を行った。避難訓練には、避難誘導ロープを使用し、安全に移動することができた。今後は、防犯対策にも、力を入れていく。</p>

※4段階評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

※各種評価データ(保護者アンケート、教職員園評価)を基礎資料とし、協議・考察した結果を自己評価とする。

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	<p>本年度定めた重点的に取り組む目標(子どもの成長・発達を保障する教育の実践)としては、達成できたのではないかと思う。今年度は、聖カタリナ学園100周年の記念の年であり、幼稚園でも記念行事として第1回マラソン大会を実施した。運営に当たっては、大学の協力により実現することができた。今後も、園の特色である専門的教育を織り込んだ遊びを展開しつつ、自然災害、防犯対策においても、協力が得られるよう緊密な関係を構築していく。また、年長児が瀬戸内海国立公園「鹿島」の清掃活動を経験したことから、今後も地域貢献する幼稚園を目指していきたい。</p>

5. 今後、取り組む課題

課題	具体的な取り組み
<p>カトリック精神に基づき、幼児の心身発達に即した教育を心掛け、特に心の教育に重点を置き、思いやりや優しさ、感謝の心を育てていけるよう取り組みたい。</p>	<p>祈りの精神が培えるように、朝の祈りの中で園児からの祈りを取り上げられるように工夫したり、お世話体験を通して、年長児は、年下を思いやったり、年少児は、年長児を慕ったりして、日々の生活の中で培えるようにしていく。</p>